

## 平成23年度江東区立第六砂町小学校経営計画

### I 目指す子供像（第六砂町小学校教育目標）

- 考える子  
基礎的・基本的な学習内容を確実に習得し、それらを活用しながら課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、そして最後までやり遂げる粘り強さを身に付け、自ら意欲的に学ぼうとする児童を育成する。
- ◎なかよくする子  
自他の感情を尊重し合い、思いやりをもって接することができる児童を育成する。
- 元気な子  
規則正しい生活習慣を身に付け、運動を通じて体力をはぐくみながら、心身ともに健康な生活を送ることができる児童を育成する。

### II 目指す学校像

- 児童にとって「明日が待ち遠しい学校」  
子供が満足感、充実感、所属感を味わえ、自己実現を図ることができる学校
- 保護者にとって「わが子を託せる学校」  
登校する子供を安心して送り出せる信頼のおける学校
- 地域にとって「地域とともに歩む学校」  
地域に対して常に開かれ、参画、連携、相談ができる学校
- 教職員にとって「自信と誇りをもち、やりがいのある学校」  
教育公務員としての責任を自覚し、自らの専門性や持ち味を存分に発揮できる学校

### III 学校経営理念 「はじめに子供ありき」～子供たちの笑顔のために～

#### 1 学校経営理念

学校経営の理念を「はじめに子供ありき」とし、すべての教育活動の中心に子供を置く。今年度から学習指導要領が完全実施され、各教科等の指導すべき内容が増える。しかし、指導に当たっては、指導を優先せずに、絶えず子供の学力や生活の実態を踏まえながら、授業改善と学級・専科経営等を心がけていく。指導すべき内容は確実に押えながら、常に一人一人の子供の実態に合わせた教育を推進する学校にしていく。

そのことが、子供の学校生活に対する満足感や充足感、所属感を高め、子供の笑顔を増やしていくことにつながる。子供の笑顔を増やすことが、子供にとって「明日が待ち遠しい学校」、保護者にとって「わが子を託せる学校」、地域にとって「地域とともに歩む学校」づくりの出発点である。

このような学校をつくるためには、全教職員が学校教育目標に掲げた児童像の実現に向けて全力を傾けるととともに、全教職員が互いに支え合い、「心をつなぐ」にして教育活動の充実を図っていく。

### IV 今年度の重点施策

#### (1) 思いやりの態度の育成

今年度は、重点目標「なかよくする子」の具体的な子供像『自他の感情を尊重し合い、思いやりをもって接することができる児童』（本校の人権教育の目標）を育成を重視する。

今年度は、昨年度に引き続き、文部科学省人権教育研究指定校として人権教育を推進していく。その際、自他の価値を尊重しようとする意欲や態度を育むために、道徳教育において道徳の内容項目「思いやり」「親切」に関わる価値を重点的に取り上げ

指導し、道徳的な心情、判断力、実践意欲や態度などの道徳性を養っていく。

児童の成果指標

「自他の感情を尊重し合い、思いやりをもって接することができた」の肯定的評価90%以上

## (2) 基礎学力の定着

在籍する学年までの基礎的・基本的な学習内容を確実に習得させることを重視する。特に算数の四則計算の力、国語の漢字と基本的な書く技能の習得、言語による表現力の定着を目指し、取り組む。

四則計算の学習は、主に週二回の朝学習でドリル学習を実施する。語彙力を身に付けさせるとともに、書くことの基礎的な力を定着させるために、週1回、発達段階に応じて各学級で「短作文」の学習を行う。作成した短作文は、継続して教室に掲示する。また、3年生以上学級に辞書を常備し、随時辞書引きを習慣化を目指す。表現力の育成に向けて、毎日声を出す取り組みを継続して行う。そして児童一人一人が全校の前で大きな声で発表する機会（人権集会）を設定し、表現する楽しさ、喜びを味わわせる。

児童の成果指標

- ① 学年で身に付ける国語・算数の学習内容を90%以上の児童に定着
- ② 「授業は分かりやすく楽しい」の肯定的評価90%以上

## (3) 規律ある学校生活を過ごすために

① 各階毎に低・中・高学年ブロックで子供たちを指導・管理する体制を取る。また学年（ブロック）単位の児童の授業にかかわる体制もつくる。高学年に関しては、交換授業を行う。（学年単位でも可）また、高学年には、副担任制を導入し専科を一人ずつ副担任として指名する。

② 規範意識の醸成と学習のかまえをつくるために、昨年度作成した「六砂小学習のきまり」を各学級で定着をするまで徹底して指導する。また生活指導の重点として「4つのあ」（あいさつ・あつまり、あとしまつ、あんぜん）も年間通して指導する。年度末には、今年度の実践を元にして、「六砂スタンダード」を作成する。

児童の成果指標

- ① 「六砂小学習のきまりを守って授業をしている」の肯定的評価90%以上
- ② 「4つのあを守ることができた」に肯定的評価90%以上

## (4) 家庭との連携強化

① 家庭学習の定着を図るために、家庭学習キャンペーンを実施する。

年間3回、年度初めと長期休業日明け2週目に設定し、学びフェストに掲げた学年×10分の実施内容、持ち物確認（ノート、教科書、専科の道具）等をチェックカード等で家庭とともに確認する。

② 通学路、家庭環境を実際に確認しながら、保護者の顔を覚える機会とするために家庭訪問を実施する。

③ 保護者の教育力を活用した活動の充実（学校図書館ボランティア、おやじの会）

児童の成果指標

- ① 「家庭学習を毎日学年×10以上している」の肯定的な評価90%以上

## V 短期目標と方策（今年度の重点とする方策の抜粋）

### 1 「考える子」の育成を目指して

- (1) 教科書を主たる教材とし、教科等の年間指導計画及び評価計画を作成し実施する。
  - ① 教科等の年間指導計画、評価計画に基づき、一単位時間の授業の質を高め、児童にとって「わかる、楽しい、かかわりのある授業」の実施する。
- (2) 東京都・校内の学力調査結果を踏まえて作成する学力向上全体計画及び授業改善推進プランを基にして、学力向上策を年間通して計画的に実施する。
- (3) 体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に取り入れ、学んだ知識や技能を主体的に活用する力や知的好奇心を高める授業を実践する。
- (4) 国語科を中心に各教科等において言語活動を充実する。
  - ① 漢字学習は、朝学習や授業における反復学習等を活用して定着を図る。
  - ② 書く力の育成は、全学年で週1回発達段階に応じた「短作文」の指導をする。
  - ③ 語彙力を身に付けるため、第3年生以上の学級に辞書を常備し、辞書引きを習慣化する。
  - ④ 言語による表現力を育成するため、全学年で詩の音読等を行い、全児童が全校の前で年間1回発表する機会を設ける。（人権集会を活用する。）
- (5) 算数科の基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指す。
  - ① 四則計算の力を身に付けるために、朝学習で重点的に取り組む。
  - ② 計算力の定着度を測るため学期末に計算力のテストを実施する。
  - ③ 個に応じた指導を徹底する。
    - ア 算数科の少人数指導加配教員、区学力向上支援講師と連携した指導の充実
- (6) 読書活動の推進
  - ① 親子読書、朝読書、保護者ボランティアによる読み聞かせの充実
  - ② 学校図書館司書、学校図書館ボランティアによる学校図書館の充実
- (7) 家庭での学習習慣の確立を目指した取り組み（学年×10分以上）を行う。
  - ① 家庭訪問及び家庭学習キャンペーンを年間2回設定する。
- (8) 学級活動の話し合を通して、自主的、自発的な活動を促す。

### 2 「なかよくする子」の育成を目指して

- (1) 人権教育を通して道徳教育の充実
- (2) 満足感、充実感、所属感の味わえる学年・学級・専科経営の充実
- (3) 特別支援教育の推進
  - ① 都立特別支援学校の障害のある児童との交流及び共同学習の充実
- (4) 自己肯定感を高め、思いやりや協力の心情を育てる活動
  - ① 特別養護老人施設との交流、地域に住む高齢者、近隣の幼稚園児、保育園児との交流に取り組む。
  - ② 人権集会や人権標語の取り組みの充実
  - ③ 縦割り班活動（縦割り班での遊び、全校遠足、新年こども会、交流給食など）での異学年交流の充実
- (5) いじめ・不登校、問題行動などの未然防止に向けて
  - ① 年間3回教育相談週間の実施、年間2回「Q-U検査」の実施を通して、児童の友達関係等を把握し、いじめ防止を図る。
  - ② スクールカウンセラーを活用した教育相談活動の推進

### 3 「元気な子」の育成を目指して

- (1) 体力調査結果で明らかになった課題を踏まえ、体育の指導および芝生の校庭を活用した外遊びを工夫し、体力向上を図る。
- (2) 家庭と連携した健康教育と食育を重視して取り組む。
- (3) 運動会、マラソン大会や長縄チャレンジ、なわとび月間及び集会の充実
- (4) 毎日の歯磨き指導等、年間通した歯磨き指導の充実（家庭との連携含）
- (5) 学校保健委員会を開催し、保護者、校医とともに協議し健康教育を推進する。

#### 4 開かれた学校づくり

- (1) 保護者、地域（幼稚園・保育園）に開かれた学校づくりの推進
  - ① 学校評議員や学校関係者評価委員会を活用した学校評価の実施
    - ア 年間2回、教職員、児童、保護者による自己評価と学校関係者評価を実施し、次年度の教育活動に反映する
    - イ 学校評価は、学校だより、学校HP、保護者会等で公開する。
- (2) 近隣の幼稚園、保育園、中学校とともに幼少中連携教育の推進
  - ① 幼稚園、保育園の幼児の学校行事への招待
  - ② 第5学年による保育体験活動の実施
- (3) 地域と連携した安全教育の推進
  - ① セーフティ教室における、警察等と連携した薬物乱用教室、携帯電話にかかわる情報モラル講習会の充実
  - ② 登下校等、校外の安全確保を図るための地域安全マップの作成（5年とPTA）
  - ③ 毎月の避難訓練、安全点検、安全指導の確実な実施（ヒヤリハットの法則で）
  - ④ 交通安全週間、防災訓練等を地域、保護者と連携して実施する。
- (4) 道徳授業地区公開講座で道徳の授業を全学級で行い、保護者・地域と一体となった心の教育を推進する。
- (5) 学校公開、学校説明会、学校行事、学校HP等による計画的な情報発信
- (6) 鼓笛隊の地域行事への参加
- (7) 校庭の芝生を活用した夏季休業中キャンプの実施

#### VI 評価指標

	教師の努力指標	子供の成果指標	保護者・地域の成果指標
考える子の育成	①「わかる、楽しい、かかわり合いのある授業」の実施の自己評価が90パーセント以上	①「授業は分かりやすく楽しい」の肯定的評価90%以上	①「授業が分かりやすく楽しい、かつ子供同士がかかわりあっている」の肯定的評価90%以上
	②校内学力調査結果を踏まえた授業改善推進プランによる授業等を90%以上実施	②学年で身に付ける国語・算数の学習内容が90%以上の児童に定着	②「国語・算数の基礎的な力が付いた」の肯定的評価90%以上
	③「六砂スタンダードを活用して授業規律が守られた」の自己評価が90%以上	③「学習のきまりを守って授業をしている」の肯定的評価90%以上	③「学習のきまりを守って授業をしている」の肯定的評価90%以上
	④家庭での予習、復習をする生活リズムを促す家庭学習を一日一課題以上出した教員90%以上	④「家庭学習を毎日学年×10以上している」に肯定的な評価90%以上	④「家庭学習が学年×10以上が定着している」に肯定的な評価90%以上
なかよくする子の育成	①人権教育に関する研究授業等の研修を年間10回以上実施	①「自他の感情を尊重し、思いやりをもって接する」に肯定的評価90%以上	①「人権教育の取組が日々の教育活動に生かされている」「子供たちに思いやる気持ちが身に付いている」に肯定的な評価80%以上
	②人権月間（5月6月7月9月10月11月2月）の設定と人権集会を実施		
	①存在感、所属感、充実感を味わわせる経営計画を全教員が作成	①「学級での生活が楽しい」に肯定的な評価90%以上	①「子供は学級での生活が楽しいと言っている」に肯定的評価90%以上
	①いじめの未然防止に向けた取組を年間1回実施	①「学級にはいじめがない」に肯定的評価90%以上	①「いじめ防止に学校は年心に取り組んでいる」に肯定的評価90%以上

	②児童理解を図る研修の実施、保護者との信頼関係を構築するための研修を年間通して実施	②「先生は、話しやすく、相談にのってくれる」に肯定的評価90%以上	②「学校は、子供の相談に適切に対応している」に肯定的評価90%以上
	①「4つのあ」を年間通して毎月全校で計画的に指導	①「4つのあを守ることができた」に肯定的評価90%以上	①「4つのあも含め、子供に基本的な習慣が身に付いた」に肯定的評価90%以上
元 気 な 子 の 育 成	①校庭芝生を有効活用した体育指導、外遊びを工夫した教員90%以上	①「校庭の芝生で楽しく体育や遊びができた」に肯定的な評価90%以上	①「校庭の芝生化は、よい教育効果をあげている」に肯定的評価90%以上
	②体力テスト結果を踏まえた家庭と連携した体力向上の取組をした教員90%以上	②「家庭で体力向上の運動をした」に肯定的な評価80%以上	②「家庭で運動に取り組んだ」に肯定的な評価80パーセント以上
開 か れ た 学 校	①年間2回、教職員、児童、保護者による自己評価と学校関係者評価を実施	①年間2回、授業等に関する自己評価をした100%	①年間2回、学校評価へ回答率80%以上
	②幼稚園、保育園の幼児の学校行事への招待を年間2回以上実施	②次年度の入学者児童数41人以上	②「幼稚園、保育園との交流が教育的効果を生んでいる」と評価80%以上

※子供と保護者・地域の成果指標は、自己評価の調査項目と連動した指標とした。